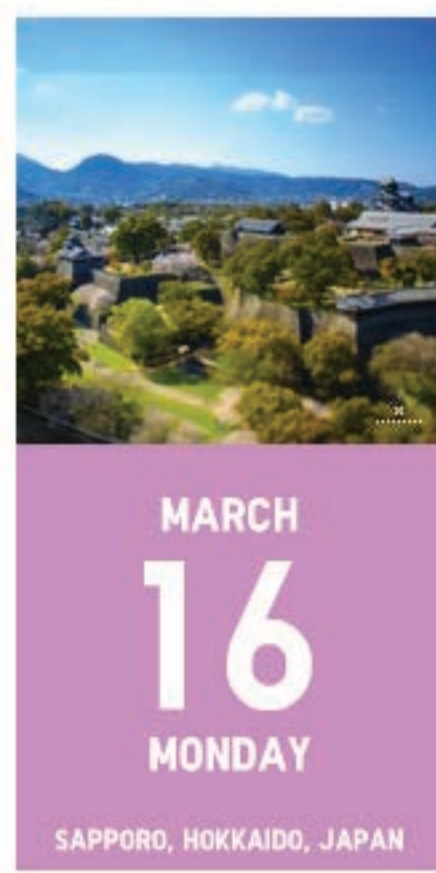


世界のクリエイティブカルチャーを紹介するトライリンガルオンラインマガジン。

SHIFT

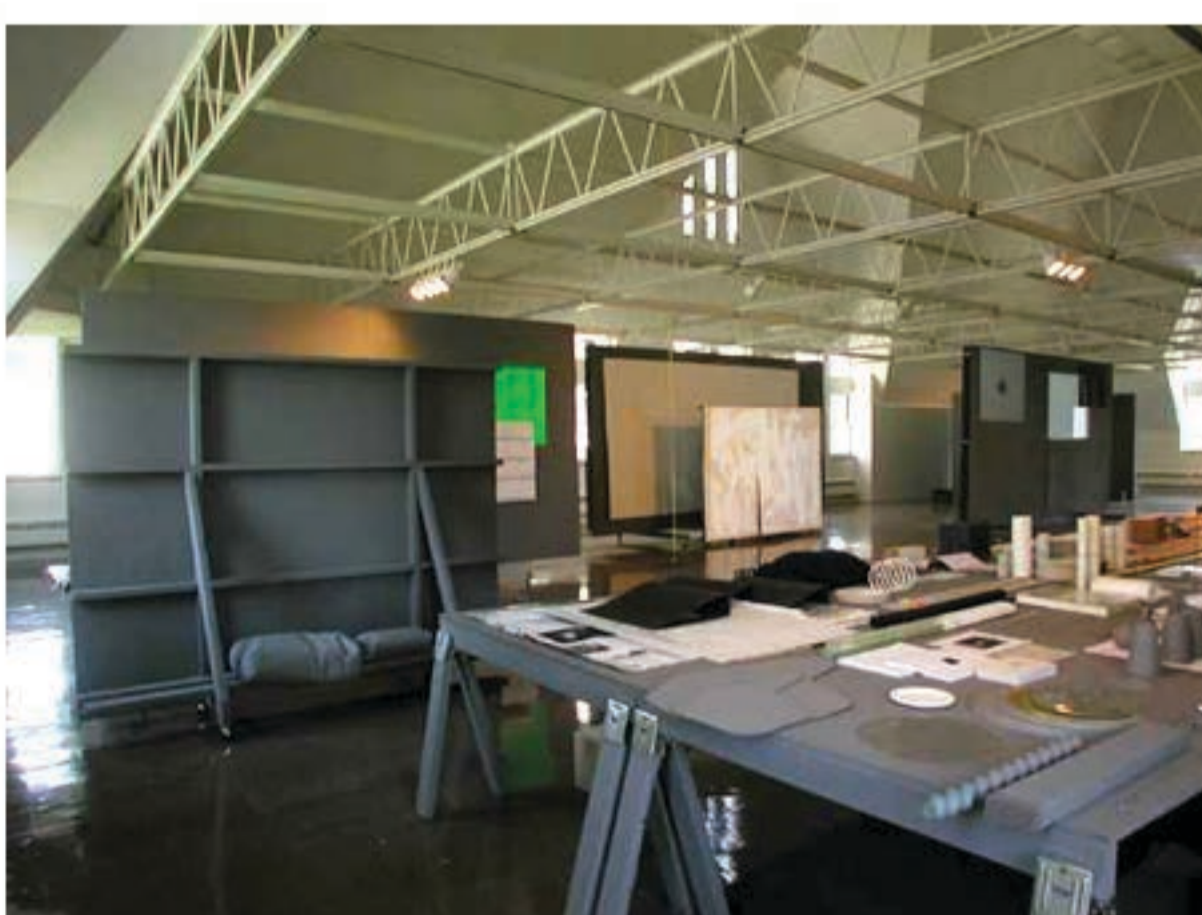


ジョエル・ツアリンクス展

Tweet



60年代と70年代に、概念主義という動きがあるひとつのアートの形を紹介した。そのアートというのが、それ自体が持つ根本的なアイデアから中間的な対象物をできる限り取り除く、というものだ。このアートについての考え方は、書面で表すこともできれば、図式や表で表すことも可能。アーティストやオーディエンスの頭の中にこのアイデアがありさえすれば、身の回りにあるものを使って説明することもできる。この考え方を、ダダイズムとマーシャル・デュシャンの反芸術主義と融合した最も有名な人物は、ジョン・ケイジ、オノ・ヨーコ、ヨゼフ・ボイスなども参加した、フルクサルの動きと結び付けた人物だ。



ここに、ジョエル・ツアリンクスというベルギー人アーティストがいる。現在、彼女にとってはアメリカでは初となる展覧会「Chicago Studies: Les etants Donnes」をザ・ルネッサンス・ソサイエティーで開催。概念主義の歴史の輪を、現代という空間で表現している展覧会だ。過去30年間の革新を内面的にするような図式オブジェの言語やアイデアを、アートの世界の会話の中に取り込むということが、多元論的にもなるだけでなく、議論の現象にもつながったのだ。



ザ・ルネッサンス・ソサイエティーは、シカゴ大学のキャンパス内にあることから、ツアリンクスは段ボールからストロー、黒板、机、そして椅子などをセレクト。それらを再度、共通項があるもの同士で分け、現代主義を彷彿とさせる方法でテーブルの上に配置した。その結果現れたのが、いつもの教室にアート作品があるという風景。しかしそこに漂う効果はかなり力強いものだ。神聖なのに世俗的、そして特権的ともいえるあたりまえさは、ある程度は取り消すことができることはでき、また逆に、取りかえすこともできるもの。だからこそ、事前にわざわざ録音しておいた掃除機の音や外の騒音などは、質の高いアートをダメなものにするためには、現在ではあまり使われなくなったのだ。僕がこの展覧会を訪れた時、ギャラリーの窓は全開になっており、午後の光が徐々に入り、キャンパスの外の音がすんなりと展示品と融合していたのが感じられた。もちろん、それぞれのオブジェが何も特別な意味を持っていなかったり、アートを実際に試してみたり、そういったことを無視するのを好んだりするような傾向といった差異があることも確かだ。しかし、とりあえず塗ったんだな、と思われるグレーの部分や、色鮮やかに描かれた丸に対する私達のしらけた興味をあえて描くということは、結果的には見る側の美術館との関係や、展覧会の内容、それにその場の雰囲気と焦点を合わせたものなのである。

Joelle Tuerlinckx

Chicago Studies: Les Etants Donnes, SPACE THESIS

会期：2003年5月4日～6月15日

会場：The Renaissance Society at the University of Chicago

住所：5811 S. Ellis Avenue, Bergman Gallery, Cobb Hall 418, Chicago, Illinois 60637 USA

TEL：+1-773-702-8670

info@renaissancesociety.org

www.renaissancesociety.org

Text: Matt Smith

Photos: Courtesy of the Renaissance Society

Translation: Sachiko Kurashina

CHICAGOの様々な情報は、「SHIFT CITY GUIDE CHICAGO」をご覧ください。

目 URLを表示 ㊟メールで送信 ㊟ツイート **NEW!**

関連記事

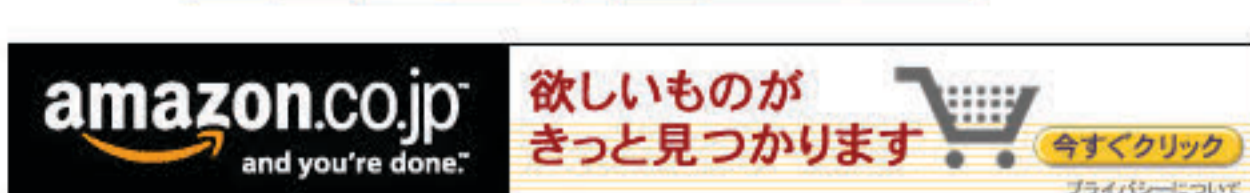
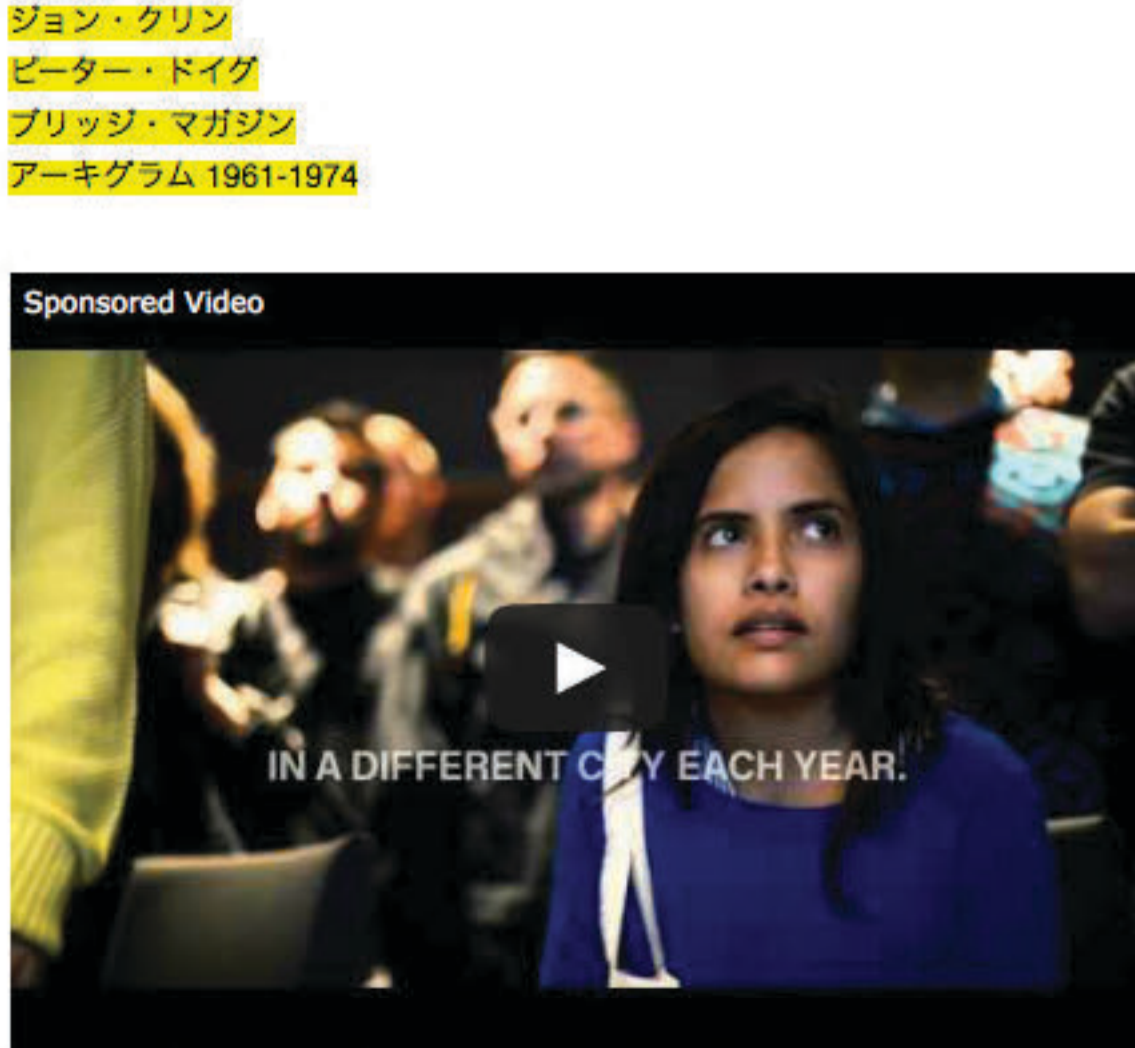
[ジョン・クリン](#)

[ピーター・ドイク](#)

[ブリッジ・マガジン](#)

[アーキグラム 1961-1974](#)

Sponsored Video

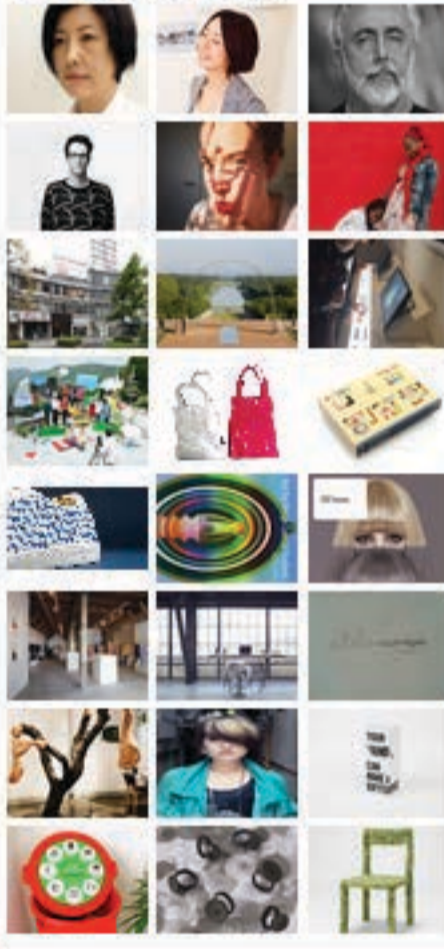


HAPPENING 記事一覧

- ジ・アザー・カメラ
- イマジニアリング・オカヤマ・アートプロジェクト
- リ・ウーファン：ヴェルサイユ
- 第18回 文化庁メディア芸術祭
- 六甲ミーツ・アート 芸術散歩 2014
- ドリス ファン ノッテン：インスピレーションズ
- クリエイティブ北海道ミーツ台北 2014
- アートフェア札幌 2014
- DOTMOV FESTIVAL 2014
- 三沢厚彦 ANIMALS 2014 IN 高松 展
- デジタル・レボリューション
- 伊賀信 展「ドット・ストライプ・クロス」
- 「ノスタルジー&ファンタジー 現代美術の想像力とその源泉」展
- アイム・スティル・ヒア展
- ヨコハマトリエンナーレ2014
- スプラウティング・ガーデン ー萌ゆる森ー
- ピ・ロンギン展
- ノー・カントリー：南アジアと東南アジアのためのコンテンポラリーアート
- マザック・マザック ー幼少の記憶
- プリマベラ・サウンド 2014
- ソナー 2014
- ワビサビ写真展「ドロ〜ン」
- アイ・ウェイウェイ「エビタンス」
- ギャラリー・ウィークエンド
- ビル・ヴィオラ展
- 東南アジア映画祭2014
- ノット・アゲインスト・インタープリテーション：無題
- デフェネストレーション
- 小林俊哉個展「取り返しのつかないものを取り戻すために」
- シンガポール・アート・ウィーク 2014
- アート14口 لندن
- 五木田智夫展
- メゾン・エ・オブジェ・アジア
- アプルーフト・アート・アワード 2013
- アート・アップ!
- あなたの肖像ー工藤哲己回顧展
- インダストリー・ナイト 2013
- アンドレアス・グルスキー展
- フォーリー・ポップアップ・ミュージアムストア
- アイスヒルズホテル IN 当別 2014

全て表示

PHOTO GALLERY



おすすめ記事

- アートフェア札幌 2014
- DOTMOV FESTIVAL 2014
- SHUUN
- owtn.
- ミュージアム
- アイスヒルズホテル in 当別 2014
- 第17回 文化庁メディア芸術祭
- ギャラリーペロタン 25周年